

事業背景・目的

近年、全国各地で地域づくり活動が盛んに行われる中、中山間地域では地元住民だけでなく、地域おこし協力隊や学生などの外部人材を地域へ受け入れることで新たな化学反応を起こす取り組みも各地で始まっている。

そんな人々が行き交う郷において、地域の元気はどのように創られていくのか、その秘密に迫る。

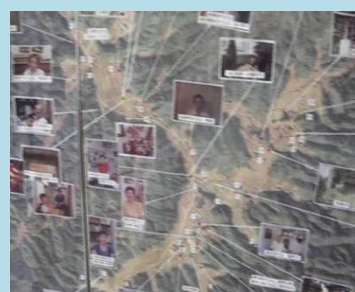
事業手法

平成26年8月～9月中の約1ヶ月間、島根県内の3地区に大学生を配置（学生インターンシップとして真砂1名、左鏡2名、五箇3名）。学生は地域で生活をしながら、地域の方々と課題に取り組む活動を行った。

インターンシップ期間中の地域と学生の状況、その後の成果報告から、地域の元気創出ポイントを導き出した。

事業の流れと「元気の創出」ポイント

	地域	学生
成果	<p>○地元食材の昼食を学生に提供。食べることが、そこで生きること。</p> <p>→毎日の食事に、工夫や想いが込められる。地域の記憶も掘り起こされる機会に。</p> <p>→毎日の食事から食べ方だけでなく、人や暮らしへの気づきに。</p>	
	<p>○子どもたちとの活動が、地域との接着剤に。</p> <p>→子どもたちにとって、大学生は地域にはいないロールモデル。</p> <p>→子どもたちとの活動が地域においての信頼醸成や不安を取り除く機会に。</p>	
	<p>○地域のことがわからない人がいることが新鮮。伝えたい現象へ。</p> <p>→「子どもでもないけど社会人でもない年代」が地域で頑張ろうとする姿に、少し手助けしたいという気持ちが点々と生まれる。公民館はそのつなぎ役に。</p> <p>→伝えてもらったことを「地域資源マップ」などにまとめることで、地域へお返し。それは、大学生にとっても人生のロールモデル。</p>	
課題	<p>○住まいの確保(ツーリズムやお試し宿泊の事業もセット)</p> <p>→すぐに使わせてもらえる空き家などが不足。ツーリズムなどとあわせて短期宿泊できる拠点確保が理想</p> <p>→生活での困りごとや不安を相談できる相手が必要。短期的なホームステイなども検討課題</p>	
	<p>○「何をすればいいのか」「何をしたらいいのか」を越える仕組みづくりを</p> <p>→「地域活動の求人票」などを作成して、地域が大切にしている考え方やキーワードをしっかりと伝えておく必要がある。ネット発信を活用できる可能性も。</p> <p>→「やっと慣れた頃に終わらなければならなかった」という意見も。インターン事業を終えた人材は地域の協力隊予備軍。学生登録制度などの仕組みの可能性も。</p>	



事業成果の活用・今後の事業計画

事業終了後に地域からは、「これまで大学生との接点がありませんでしたが、この夏の経験を通じて地域の方々もどのような接し方をすればいいのか、その感覚を理解することができた」という感想も頂いている。今後、市町とも連携したインターン事業を展開することで、ノウハウを蓄積し、全国的にも更に拡大されることが予想される外部人材の受け入れの分野において事業成果を活用していきたい。

MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

試験研究課題名： 学生インターンシップ

担当科： 中山間地域支援スタッフ

研究担当者： 檜谷邦茂、田中宏美、野口拓郎

問い合わせ先： 0854-76-3830 (直通)

E-mail： chusankan@pref.shimane.lg.jp (代表)

(研究期間： H26/4～9月)

